福岡市の住居表示実施状況について

小　出　秀　雄

１．本稿の背景と目的

1962年の５月にわが国で「住居表示に関する法律」（昭和37年法律第119号）が施行されてから，60年余りが経過した。中澤（2022）によると，2021（令和３）年度末の時点で住居表示を実施している市区町村は563団体であり，実施面積は約7,965km^{2}である。また，同時点での実施計画は約618km^{2}であり，計画がすべて実施されると総面積は約8,584km^{2}となる。

小出（2021，2022）では，住居表示を実施している福岡県福岡市と同県北九州市で見られる街区表示板を実地調査し，各市の表示板の変遷と種類を論じた。その際，住居表示の実施状況を必要に応じてふれていたが，まとまった資料としては不完全なものであった。

本稿は，筆者が住んでいる福岡市の住居表示実施について，まず第２節で，わが国の住居表示実施第一号である1962年８月の事例から，直近の2022年７月までの事例を概観する。福岡市の住居表示実施については，『福岡市史』の昭和編資料集の２冊と「区政概要」（同市ウェブサイトに掲載）に記されているが，町域等の細かい情報については，市の総合図書館に所蔵されている『福岡市議会議案』で確認している。

続いて第３節で，７つの行政区の住居表示実施状況をそれぞれ示す。本来の順番は東区・博多区・中央区であるが，住居表示が先行した中央区（1962年開始），博多区（1966年開始）から言及し，東区（1968年開始）はその次にふれる。住居表示の実施状況を一覧表で示すとともに，それぞれの区における特徴を明らかにする。

そして第４節では，ケーススタディとして，早良区の北部（西新町周辺・大字原周辺・大字庄周辺）の町名変遷図を紹介する。一般的に，住居表示のために行われる町界町名整理の前後関係はかなり複雑であり，前述の『福岡市史』のリストでは，新旧の町名が上下に並べられているのみである。この町名変遷図は，変更の前後関係をできるだけ「見える化」しようとする試みである。

最後の第５節では，本稿の成果と課題を述べる。

２．福岡市の住居表示実施の概要

福岡市では1962年８月16日，天神周辺の春吉・高宮地区（現在の中央区1.56 km^{2}と現在の南区0.13km^2）[1]において，町界町名の整理と住居表示が実施された。これが，わが国初の住居表示実施である。1962年の５月に「住居表示に関する法律」が施行されたが，早くも同月の28日付けで福岡市議会に，市街地における住居表示実施の議案が提出された[2]。

参考までに，東京都の豊島区での住居表示実施第一号は1964年11月１日の南長崎１～６丁目，千代田区での第一号は1964年12月１日の外神田１～６丁目である[3]。東京都心における住居表示実施の開始が，前述の法の施行から２年以上経過していたことを考えると，福岡市の動きがいかに早かったかがわかる。

その福岡市は1972年４月１日に政令指定都市となり，東区・博多区・中央区・南区・西区の５つの行政区が発足した（区制施行）。またこのタイミングで，旧筑紫郡の春日町は春日市に，大野町は大野城市に，筑紫野町は筑紫野市

1　春吉・高宮地区とは，西中洲，春吉1～3丁目，渡辺通1～5丁目，清川1～3丁目，高砂1・2丁目，白金1・2丁目，大宮1・2丁目，那の川1・2丁目を指す。西鉄高宮駅の周辺を高宮地区と思ってしまうが，実際の位置関係は単純ではない。高宮小学校は中央区白金2丁目にあり，高宮中学校は南区大楠3丁目にある。また，高宮1～5丁目は南区であり，高宮校区ではなく西高宮校区である。

2　議案の正式名は，「住居表示に関する法律第三条第一項の市街地の区域及び当該区域における住居表示の方法について」である。

3　千代田区の住居表示実施率は面積比で74.1％であり（千代田区ウェブサイト「住居表示実施地区と未実施地区一覧」，東京23区の中で最も低い。この値は筆者も，各町の面積を加算して確認した（「令和3年版千代田区行政基礎資料集」の項目「町丁目別世帯・人口及び面積」の値に基づく）。千代田区で住居表示が最後に実施されたのは，1980年1月1日の紀尾井町においてである。

に，それぞれ昇格した。その10年後の1982年５月10日，人口が急増したそれまでの福岡市西区が３つに分区し，新たに城南区と早良区が発足した（行政区再編成）。この日より福岡市は７区となり，現在まで40年以上が経過している。

福岡市役所が所在する中央区は面積が相対的に小さく，区の中心部の山荘通３丁目[4]，古小烏町[5]，薬院伊福町[6]の３町を除いたエリアで，住居表示が完了している。その一方，福岡市の西部に位置し自然が豊かな早良区と西区においては，市街地以外の面積が格段に広いため，住居表示が実施されている面積の割合は小さい。

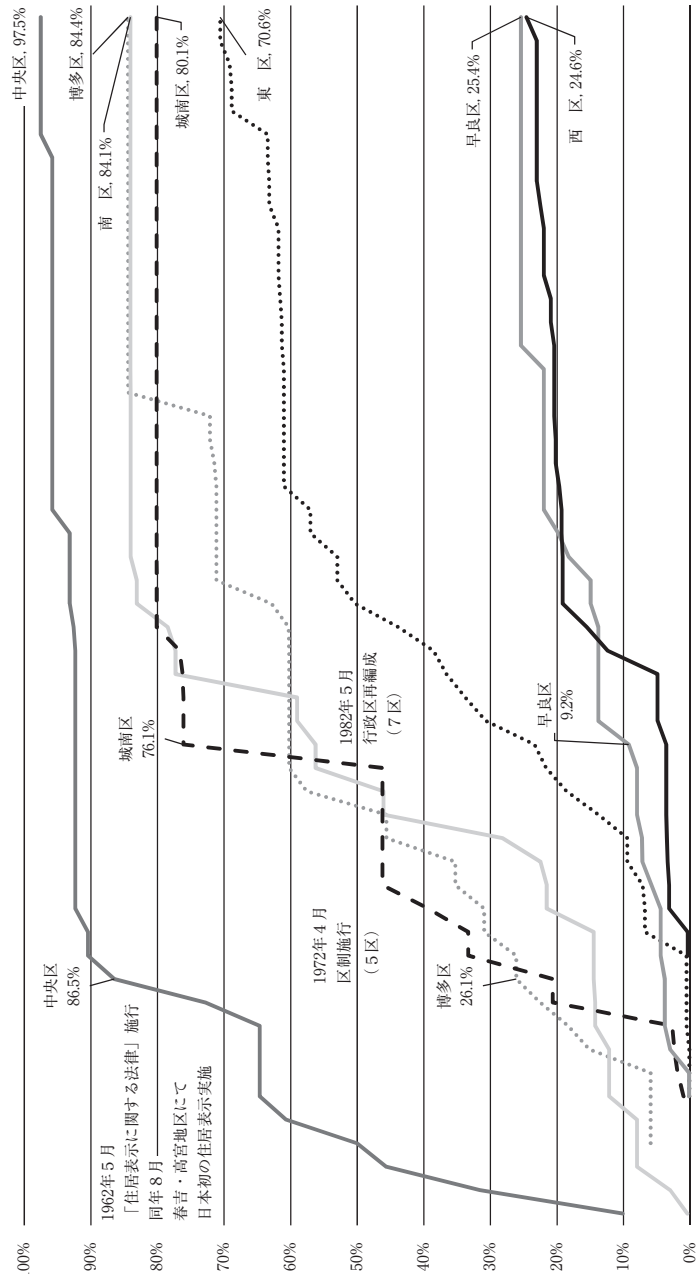
図１は，福岡市における1962年度から2013年度までの住居表示実施率（＝各区の総面積に対する住居表示実施面積）の推移を，区ごとに示したものである。なお，各区の総面積（km^2）は，令和３年（2021年）版「福岡市統計書」に掲載されている面積（令和３年10月１日現在）を利用している。ちなみに，東区では埋立・編入が複雑に進んだこともあってか，地区別の住居表示実施面積の合計（49.023km^2）と，統計書に記載されている東区の総計（48.05km^2）が微妙に一致しない。

図１を見ると，住居表示は現在の中央区でいち早く実施され，区制が施行された1972年度には，区の面積の86.5％で住居表示が完了したことがわかる。博多区での住居表示実施率は同年度まで，市内５区では２番目の26.1％であった。

4　山荘通は1941年1月15日に大字平尾より発足し，当時は1丁目から3丁目まで存在した。1972年4月1日の住居表示実施によって山荘通は平尾2・4・5丁目に編入され，山荘通1丁目と2丁目は消滅した。現在は，3丁目の一部が残っている。以下，『福岡市史』を参考にしている。

5　古小烏町はまず，1931年7月25日に大字薬院と大字下警固より発足し，1934年11月20日には大字薬院の一部が加わった。1967年2月1日の住居表示実施に伴い，古小烏町は薬院2丁目，警固2丁目，警固3丁目，桜坂1丁目に編入された。続いて1971年10月1日の住居表示によって，桜坂3丁目に編入された。現在の古小烏町は，1961年発行の『福岡市街図』で示されている古小烏町の隣にあり，そこが昔から同町である証拠が見当たらない。単なる作図ミスかもしれない。

6　薬院伊福町は1931年7月25日に，大字薬院より発足した。1967年2月1日の住居表示実施に伴い，薬院伊福町は薬院2丁目と警固3丁目に編入された。続いて1972年4月1日の住居表示によって，薬院4丁目に編入された。その後，薬院伊福町の南エリアと浄水通（当時は住居表示未実施）の町界が変更され（時期は1990年代～2000年代初めと推測），2008年12月15日に浄水通で住居表示が実施されたのを契機に，薬院伊福町の南エリアは浄水通に編入された。



出所：福岡市「令和３年度区政概要」，住居表示実施状況（令和３年４月１日現在，福岡市市民局総務部区政課）をもとに筆者作成

図１　福岡市の住居表示実施率（総面積比，1962～2013年度）

また，図の右端の2013年度時点で見ると，中央区の住居表示実施率は97.5％，博多区の実施率は84.4％である。以下高い順に南区84.1％，城南区80.1％，東区70.6％であり，早良区は25.4％，西区は24.6％である。

図２は，福岡市の各区の住居表示実施面積を，年度別に積み上げたものである（1962～2013年度）。面積の大小で見ると，福岡市の住居表示事業のピークは，1970年代後半から1980年代の終わり頃であったことがわかる。1990年代以降は，単発的に住居表示が行われている状況である。

最近の例としては，2022年７月19日，西区の徳永・田尻地区において町界町名の整理が行われた。そのうち，北原２丁目・田尻２丁目・田尻東１丁目において，住居表示が実施された[7]。この最新の情報は，以下の一覧表では考慮していない。

３．各行政区の住居表示実施状況

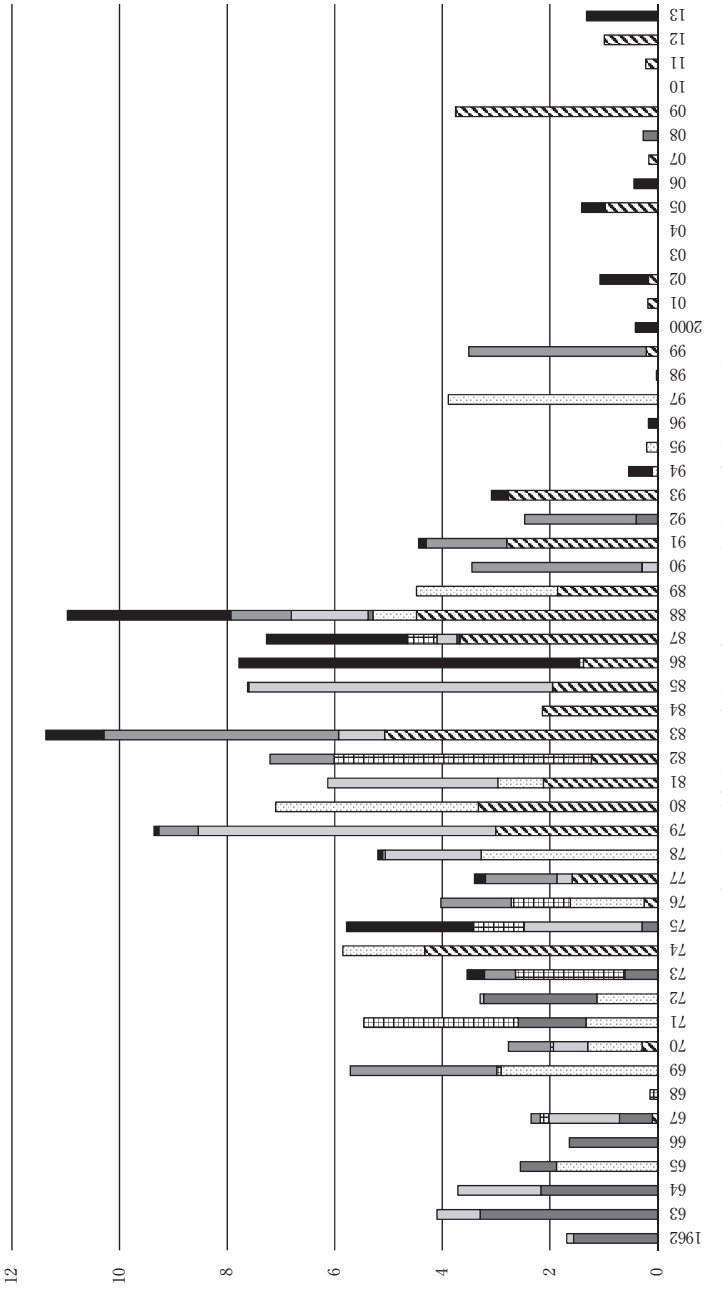
前述のように，福岡市では1962年８月16日，春吉・高宮地区（現在の中央区1.56km^{2}と現在の南区0.13km^{2}に相当）において，わが国初の住居表示が実施された。

その先駆地である現在の中央区では，他の区に比べて迅速に住居表示が進められた（表１）。区制施行の1972年度で住居表示実施率は86.5％に達し，2013年度時点では97.5％である。その一方で，中央区では他の区と同様に，博多湾の埋立事業が進められた。1970年代の福浜，1980年代の那の津，1990年代の地行浜は海を埋め立ててつくられ，その後住居表示が実施された。

中央区で住居表示が実施されていない地域は，前述の山荘通３丁目，古小烏町，薬院伊福町の３町である[8]。その周辺では2008年12月15日に，御所ヶ谷，浄水通，平丘町，平尾浄水町の４町で住居表示が実施された。

7　福岡市ウェブサイト「令和4年7月19日から，西区徳永・田尻地区で住所の表し方が変わります」より。なお，北原1丁目と田尻1丁目は既に存在し，住居表示実施済みである。

8　福岡市ウェブサイト「令和3年度区政概要」の各区町名一覧表には，中央区の欄に「伊崎浦」と「大字薬院」も記載されているが，住宅地図でその位置は確認できない。



出所：福岡市「令和３年度区政概要」，住居表示実施状況（令和３年４月１日現在，福岡市市民局総務部区政課）をもとに筆者作成

図２　福岡市の住居表示実施面積（km², 1962～2013年度）

表１　福岡市中央区の住居表示実施状況

地区名	面積(km²)	世帯数	街区数	実施年	月	日	備　　考
春吉・高宮	1.56	8,953	314	1962	8	16	
草香江・鳥飼	2.32	6,615	189	1963	6	15	
平尾	0.98	751	96	1964	2	1	
福岡	2.17	7,219	230	1964	6	15	
荒戸	0.67	2,298	56	1966	2	1	
警固・六本松	1.64	5,564	216	1967	2	1	
梅光園団地	0.03	552	18	1968	2	1	
地行・唐人町	0.58	2,131	110	1968	2	1	
別府・田島	0.11	382	29	1971	7	1	
小笹・輝国	1.15	1,696	95	1971	10	1	
荒津・那の津	1.15	1,120	71	1972	4	1	
南公園周辺	0.95	2,956	144	1972	4	1	
東田島	0.61	1,390	107	1973	7	1	
福浜	0.29	1,200	23	1976	2	1	埋立・編入
那の津２・３丁目	0.04		2	1987	11	2	埋立・編入
地行３・４丁目	0.01			1988	7	18	埋立・編入
福浜１丁目	0.08		12	1988	7	28	
地行浜１・２丁目	0.40	57	12	1993	2	1	
浄水	0.27	878	35	2008	12	15	御所ヶ谷・浄水通・平丘町・平尾浄水町

出所：福岡市「令和３年度区政概要」，住居表示実施状況（令和３年４月１日現在，面積・世帯数・街区数は実施日現在の数値，福岡市市民局総務部区政課）をもとに筆者作成

現在の博多区に関しては，1966年２月１日に「旧博多部」[9]の1.88km²，続いて1969年７月１日に博多駅周辺地区の2.91km²において，すなわち区北部の広い範囲において，住居表示が実施された（表２）。博多区は北西と南東に広がっており，南東部に位置する月隈・西月隈地区では1998年２月23日に，計3.89km²の範囲で住居表示が実施された。1998年７月13日の諸岡・南八幡町での小規模な住居表示は，春日市との境界調整に伴う動きである。

博多区で住居表示が実施されていない地域は，主に福岡空港の敷地と青木２

9　旧博多部とは，博多駅より北西で，博多湾・御笠川・那珂川に囲まれたエリアを指す。

表２　福岡市博多区の住居表示実施状況

地区名	面積(km²)	世帯数	街区数	実施年	月	日	備　　考
博多	1.88	8,268	262	1966	2	1	
博多駅周辺	2.91	9,533	452	1969	7	1	
堅粕	1.01	5,283	206	1970	7	1	吉塚１～３丁目・ 堅粕１～５丁目
山王公園周辺	1.33	2,412	143	1971	7	1	
東光	1.13	1,926	157	1972	4	1	
千代	1.15	5,390	175	1974	7	1	
沖浜	0.37	25	26	1974	7	1	
東吉塚	1.37	4,000	102	1977	2	1	
東那珂・半道橋	1.15	1,580	86	1979	2	1	
諸岡	1.09	2,632	178	1979	2	1	
板付	1.04	3,190	108	1979	3	1	
那珂	1.67	3,080	250	1981	2	1	
那珂南	1.35	4,950	220	1981	2	1	
麦野	0.75	2,610	166	1981	3	1	
井相田	0.55	350	50	1982	2	1	
三筑	0.30	720	42	1982	2	1	
東吉塚	0.02	110	3	1987	5	11	東区馬出から編入
東月隈	0.81	2,600	158	1988	5	16	
榎田・席田	2.62	2,276	185	1990	2	26	
板付編入	0.02	25		1994	4	20	板付２丁目・ 板付５丁目に編入
東月隈１丁目	0.01	31	2	1994	11	28	編入
空港前５丁目	0.07	82	25	1994	11	28	
浦田２丁目	0.20	263	40	1995	11	27	
月隈	2.84	2,858	260	1998	2	23	
西月隈	1.05	1,205	87	1998	2	23	
諸岡・南八幡町	0.00	22		1998	7	13	春日市から編入
立花寺２丁目	0.00	2	1	2009	8	3	編入

出所：表１と同じ

丁目，および同区と志免町南部との境界である。福岡空港の敷地には７つの大字があり，北から順に大字下臼井，大字堅粕，大字上臼井，大字青木，大字東平尾，大字雀居，大字下月隈である[10]。また，博多区と志免町南部の境界には，大字立花寺と大字金隈が存在する。さらに細かい点であるが，板付２丁目と西月隈５丁目，御笠川の間に，大字板付と大字上月隈が残っている。

現在の東区では，まず団地エリアの住居表示が1968年２月１日から始まり（香椎団地・貝塚団地・城浜団地等），それ以外では1974年７月１日，馬出地区の1.76km²を皮切りに住居表示が進められた（表３）。東区では2000年代に入って，海を埋め立てて造成されたアイランドシティを，まず香椎浜３丁目として住居表示を実施した。その後，香椎照葉（１～７丁目），みなと香椎（１～３丁目），香椎浜ふ頭（１～４丁目）と，段階的に町丁を再編成していった。

表３　福岡市東区の住居表示実施状況

地区名	面積(km²)	世帯数	街区数	実施年	月	日	備　　考
香椎団地	0.07	986	34	1968	2	1	
貝塚団地	0.03	528	20	1968	2	1	
城浜団地	0.29	2,898	81	1970	4	20	
馬出	1.76	5,520	184	1974	7	1	
箱崎	1.79	5,760	202	1975	2	1	
筥松	0.78	2,130	96	1975	2	1	
東浜２丁目編入	0.08			1976	9	1	
奈多団地	0.17	1,100	40	1977	3	15	
原田	0.55	1,500	72	1978	2	1	
美和台	1.04	1,930	234	1978	2	1	
名島・千早	2.34	6,440	376	1980	3	1	
郷口・社領・二又瀬	0.67	820	93	1980	3	1	

10　福岡空港は，かつての席田郡席田村に位置する。同村は1896年4月，席田郡から筑紫郡に所属が変更され，1933年4月に福岡市に編入された。終戦直前の1945年5月，旧陸軍により「席田飛行場」が完成したが，本格運用されずに終戦を迎えた。1945年11月に米軍に接収され，「板付飛行場」として運用され始めた。そして1972年4月，米軍より飛行場の大部分が返還され，福岡空港として供用が開始された。以上，福岡空港のウェブサイト等を参考にしている。

表３　つ　づ　き

地区名	面積(km²)	世帯数	街区数	実施年	月	日	備　考
香椎	1.95	4,470	338	1981	2	1	
香住ヶ丘	1.38	2,630	222	1981	2	1	
舞松原・八田	2.12	5,950	383	1982	2	1	
香椎浜	0.93		19	1982	4	1	
御島崎	0.30	980	57	1983	2	1	
美和台編入	0.06		15	1983	11	1	
西戸崎	1.58	1,650	195	1984	2	1	
和白	2.57	5,290	439	1984	2	11	
若宮	0.86	2,430	141	1984	3	1	
松崎・多々良	2.14	2,251	391	1985	2	12	
松島	1.17	920	152	1985	8	26	
多の津・原田	0.78	1,040	121	1985	8	26	
多の津	0.65	300	36	1986	11	10	
高美台	0.73	1,680	176	1986	11	25	
馬出	－0.02	－110	－3	1987	5	11	博多区吉塚７丁目に編入
香椎台	0.37	820	76	1987	5	25	
名子・土井	0.77	500	94	1987	5	25	
松田	1.01	468	81	1987	5	25	
下原	1.54	2,796	234	1987	11	2	
唐原・下原	1.50	2,980	119	1988	5	16	
箱崎ふ頭	2.98	1,020	76	1989	2	27	
青葉	1.86	3,240	331	1989	10	2	青葉１～３・５～７丁目 みどりが丘１～３丁目
和白・奈多	2.79	5,450	403	1991	8	26	和白５・６丁目・ 塩浜１丁目 奈多１～３丁目・ 雁の巣１・２丁目 三苫１～６丁目
高美台１丁目	0.01	25	4	1991	8	26	編入
香椎台３丁目	0.00		1	1992	1	27	編入
蒲田	2.77	426	134	1994	1	31	編入
香椎台Ⅱ	0.21	3	47	1999	9	14	2017/7/25 香椎台５丁目の一部
青葉Ⅱ	0.18		22	2001	6	25	青葉４丁目

表３　つ　づ　き

地区名	面積(km²)	世帯数	街区数	実施年	月	日	備　考
美和台Ⅱ	0.17	414	33	2002	8	1	美和台新町
香椎浜３丁目（アイランドシティ）	0.97	95	12	2006	2	1	
箱崎ふ頭	0.16		3	2007	12	10	箱崎ふ頭４丁目未実施地区
香椎浜３丁目（アイランドシティ・香椎パークポート）	3.75		23	2009	8	3	2019/3/25 みなと香椎１丁目編入
三苦７丁目	0.19	350	27	2012	2	13	
香椎Ⅱ	0.03	47	6	2012	3	19	香椎台５丁目・香椎３丁目に編入
香椎照葉	0.99		5	2012	7	17	2018/7/30 香椎照葉６丁目実施

出所：表１と同じ

東区の大字は11あり，西から順に志賀島の３大字（大字勝馬，大字弘，大字志賀島），大字西戸崎，大字奈多，大字三苦，大字上和白，大字下原，大字浜男，大字香椎，大字名子である。また，丁目付きの町で住居表示が実施されていないのは，西から塩浜２・３丁目，三苦８丁目，下原５丁目である。丁目が付いていると住居表示実施済みだとつい思ってしまうが，そうでない場合も多々あるので，注意を要する。

現在の南区では，隣接する中央区とともに，1960年代から着々と住居表示が実施された（表４）。その後，1979年度と1985年度の２回，それぞれ５km²を超える規模の住居表示を実施している。具体的には，1979年度は野間・若久・屋形原・三宅の計5.53km²，1985年度は桧原・柏原・和田・野多目の計5.65km²である。

南区では実質的に，1990年９月３日の鶴田・桧原地区をもって，住居表示事業を終了している。1998年７月13日の井尻３丁目への編入は，前述の諸岡・南八幡町と同様，春日市との境界調整に伴う動きである。

南区で住居表示が実施されていない約16％の地域は，油山から片縄山にかけて広がる大字桧原と大字柏原である。また柏原７丁目も，住居表示が実施されていない町である。

表４　福岡市南区の住居表示実施状況

地区名	面積(km²)	世帯数	街区数	実施年	月	日	備　　考
春吉・高宮	0.13	661	28	1962	8	16	
平尾（平和）	0.80	470	60	1964	2	1	
長尾（長住）	1.54	880	241	1965	2	1	
大橋団地	0.05	631	25	1968	2	1	
若久団地	0.10	1,046	37	1968	2	1	
弥永団地	0.13	1,294	41	1968	2	1	
高宮	1.03	2,308	172	1968	2	1	
大楠	0.64	2,530	86	1970	4	1	
多賀	0.07	4	8	1972	12	15	
清水	0.58	2,554	91	1975	7	1	
寺塚	1.61	3,400	226	1976	3	15	
西長住	0.28	515	50	1978	2	1	
井尻・五十川	1.35	5,373	252	1979	3	1	
高木	0.43	805	78	1979	3	1	
野間・若久	2.38	7,120	491	1980	1	14	
屋形原	1.71	5,260	470	1980	1	14	
三宅	1.44	5,640	296	1980	1	14	
横手・曰佐・警弥郷	3.16	7,440	731	1982	2	1	
塩原	0.86	2,630	98	1983	7	11	
桧原	1.95	3,320	457	1985	6	17	
柏原	2.16	2,050	307	1986	1	27	
和田・野多目	1.54	2,880	200	1986	1	27	
和田	0.37	1,356	73	1987	11	2	
老司・鶴田	1.43	2,663	218	1988	5	16	
鶴田・桧原	0.29	947	59	1990	9	3	
井尻３丁目	0.01	17	2	1998	7	13	春日市から編入

出所：表１と同じ

1972年に発足した５区の中で，現在の城南区と早良区を含む旧西区は広大だった。

現在の城南区では1971年度，国鉄筑肥線鳥飼駅（当時）の北側と別府・田島の計2.87km²の広いエリアで，住居表示が行われた（表５）。その前に，６カ所の団地エリア（城西団地・荒江団地・別府団地等）において，住居表示が先行実施された。城南区南部の東油山１～３丁目が発足したのは1975年度の始めであるが，1987年に東油山４～６丁目が追加され，合計で１km²ほどとなった。

表５　福岡市城南区の住居表示実施状況

地区名	面積(km²)	世帯数	街区数	実施年	月	日	備　　考
城西団地	0.03	360	16	1968	2	1	
荒江団地	0.08	1,014	33	1968	2	1	
別府団地	0.05	726	26	1968	2	1	
金山団地	0.14	1,352	57	1968	8	1	
堤団地	0.08	838	29	1969	12	27	
宝台団地	0.05	590	21	1971	2	1	
鳥飼駅北	0.54	2,529	98	1971	4	1	
別府・田島	2.33	6,612	408	1971	7	1	
樋井川	1.86	3,916	372	1973	7	1	
荒江	0.17	558	35	1973	7	1	
東油山	0.40	641	71	1975	4	1	東油山１～３丁目
田島南	0.56	2,900	114	1976	3	15	
飯倉	0.17	610	28	1977	2	1	
七隈	0.80	2,060	117	1977	2	1	
友泉亭	0.13	600	22	1977	2	1	
片江・堤	2.11	4,090	421	1982	5	10	
七隈・梅林	2.67	5,970	500	1982	11	1	
南片江４丁目編入	0.02	6	2	1986	1	27	
東油山編入	0.07	73	18	1986	11	25	東油山１丁目・樋井川７丁目に編入
東油山	0.55	494	65	1987	11	2	東油山４～６丁目・東油山３丁目に編入
南片江編入	0.00			1991	1	14	南片江４丁目に編入

出所：表１と同じ

城南区で住居表示が実施されていない約20％の地域は，油山周辺の４大字である。西から順に，大字梅林，大字野芥[11]，大字片江，大字東油山である。

現在の早良区では1969年７月１日，まず西新地区の計2.72km²で，大規模な住居表示が実施された（表６）。西新周辺に関する町名の変遷に関しては，

表６　福岡市早良区の住居表示実施状況

地区名	面積(km²)	世帯数	街区数	実施年	月	日	備　　考
原団地	0.17	1,828	63	1967	6	30	
西新	2.72	8,541	414	1969	7	1	
室住団地	0.17	2,132	75	1970	10	1	
室見	0.61	1,749	94	1971	2	1	
星の原団地	0.20	2,400	72	1973	7	1	
荒江	0.38	1,080	61	1973	7	1	
四箇田団地	0.25	2,200	56	1976	9	1	
飯倉	1.06	3,830	207	1977	2	1	
原	1.33	3,300	221	1978	2	1	
有田団地	0.05	420	12	1978	10	19	
南庄	0.73	2,200	129	1980	3	1	
賀茂・干隈	1.19	2,750	308	1982	11	1	
小田部	0.95	1,500	164	1983	7	11	
野芥・田隈	2.43	5,240	591	1983	7	11	
有田	0.98	2,550	230	1984	3	1	
次郎丸	1.10	2,364	146	1988	5	16	
西新編入	0.02		1	1988	7	18	
重留	0.97	1,420	194	1990	9	3	
早良	1.24	1,470	198	1991	1	14	
百道浜	0.95	445	51	1991	1	14	
内野・脇山	1.50	2,300	214	1992	1	27	
田村・四箇	2.07	2,500	247	1993	2	1	
入部	2.87	952	329	1999	10	21	
田村・四箇Ⅱ	0.43	805	57	1999	11	1	田村７丁目・四箇６丁目

出所：表１と同じ

11　大字梅林と大字野芥は，城南区と早良区の両方に存在する。

節を改めて例示する。

旧早良町に当たる早良区南部については，1990年度より徐々に住居表示が進められていった。1999年10月21日の入部地区2.87km²，および11月１日の田村７丁目・四箇６丁目の追加をもって，南部での住居表示事業は終了している。

早良区には多くの大字があるが，早良区役所の管轄内では大字梅林，大字野芥，大字西油山である。また，室見川沿いにごくわずかな面積であるが，大字金武が存在する[12]。

現在の西区での住居表示事業は，海を埋め立てて造成された豊浜（0.32km²）で1973年７月１日に行われたのが最初である（表７）。1986年度には壱岐南・下山門・福重・石丸の各地区において，計6.33km²の広い範囲で住居表示が実施された。

表７　福岡市西区の住居表示実施状況

地区名	面積(km²)	世帯数	街区数	実施年	月	日	備　　考
豊浜	0.32	820	51	1973	7	1	
壱岐団地	0.43	2,700	144	1975	10	18	
下山門団地	0.20	2,000	79	1976	2	1	
姪の浜	1.71	5,690	256	1976	2	1	
大町団地	0.08	550	23	1977	11	1	
拾六町団地	0.12	1,031	4	1978	2	1	
福重団地	0.04	818	9	1978	4	1	
十郎川団地	0.05	437	19	1978	10	19	
城の原団地	0.09	895	31	1979	11	1	
小戸	1.08	1,420	139	1984	2	1	
壱岐南	2.89	2,924	409	1986	7	28	
下山門	2.03	3,335	278	1986	11	10	
福重・石丸	1.41	2,505	237	1987	1	12	
今宿青木	0.95	1,260	125	1987	4	27	

12　大字金武のほとんどは，西区である。なお，前述の「令和3年度区政概要」の各区町名一覧表を見ると，早良区の欄に「大字橋本」と記載されているが，それがどこなのか確認できない。

表７　つ　づ　き

地区名	面積(km²)	世帯数	街区数	実施年	月	日	備　考
上山門・拾六町	1.67	2,330	278	1987	6	15	福重５丁目
横浜	0.64	780	89	1988	5	16	
周船寺・田尻	1.19	2,200	162	1988	7	18	
愛宕浜・生松台	1.21		180	1989	2	27	
下山門１丁目				1990	11	1	編入
石丸	0.14	140	12	1992	1	27	石丸４丁目
今宿	0.32	815	54	1993	8	30	
生の松原	0.01	10	2	1994	11	28	生の松原３丁目に編入
小戸２丁目	0.43	1	6	1994	11	28	埋立地
横浜西	0.17	81	33	1997	2	18	横浜３丁目
生の松原３丁目編入	0.01	47	1	1998	7	13	
生の松原Ⅱ	0.41	127	66	2000	11	17	西の丘１～３丁目
姪浜	0.86	4,763	125	2002	10	1	
野方４丁目編入	0.04	63	14	2003	3	12	
金武・西入部	0.44	411	93	2005	6	1	室見が丘１～３丁目
田尻	0.44	523	70	2006	10	23	富士見１～３丁目
徳永・女原・今宿町	1.32	3,542	175	2013	10	28	

出所：表１と同じ

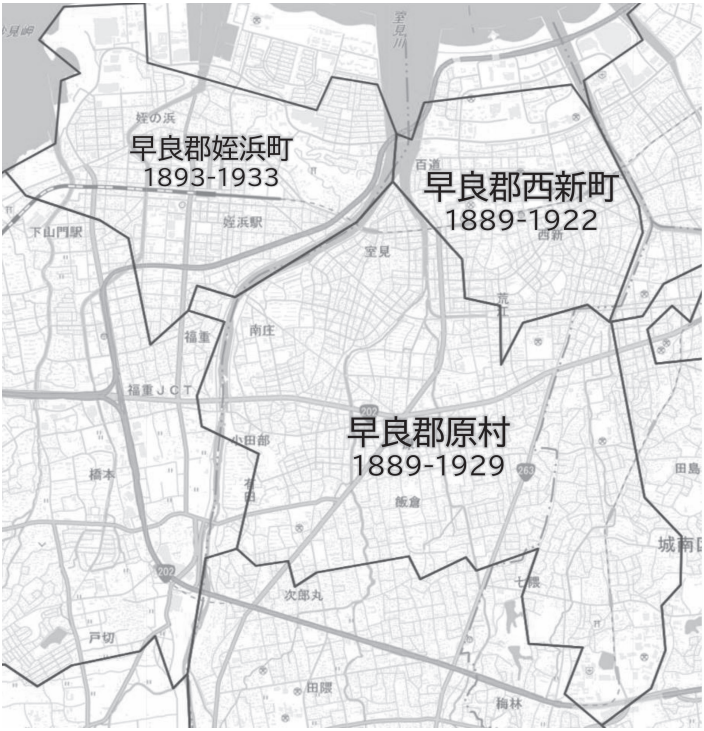
2013年10月28日に，市内でも人口増加が著しい徳永・女原・今宿町地区の1.32km²において，住居表示が実施された。2017年度に開校した西都小学校の児童数は，わずか３年で1.5倍となった。2023年４月に，新しい小学校である「西都北小学校」が開校する予定である[13]。加えて前述のように，この新しい小学校が建設されている徳永・田尻地区において，2022年７月19日に町界町名整理が行われ，そのうち北原２丁目・田尻２丁目・田尻東１丁目において，住居表示が実施された（表７には掲載していない）。

13　福岡市教育委員会ウェブサイト「西都北小学校開校準備委員会」より。

４．早良区北部の町名変遷図

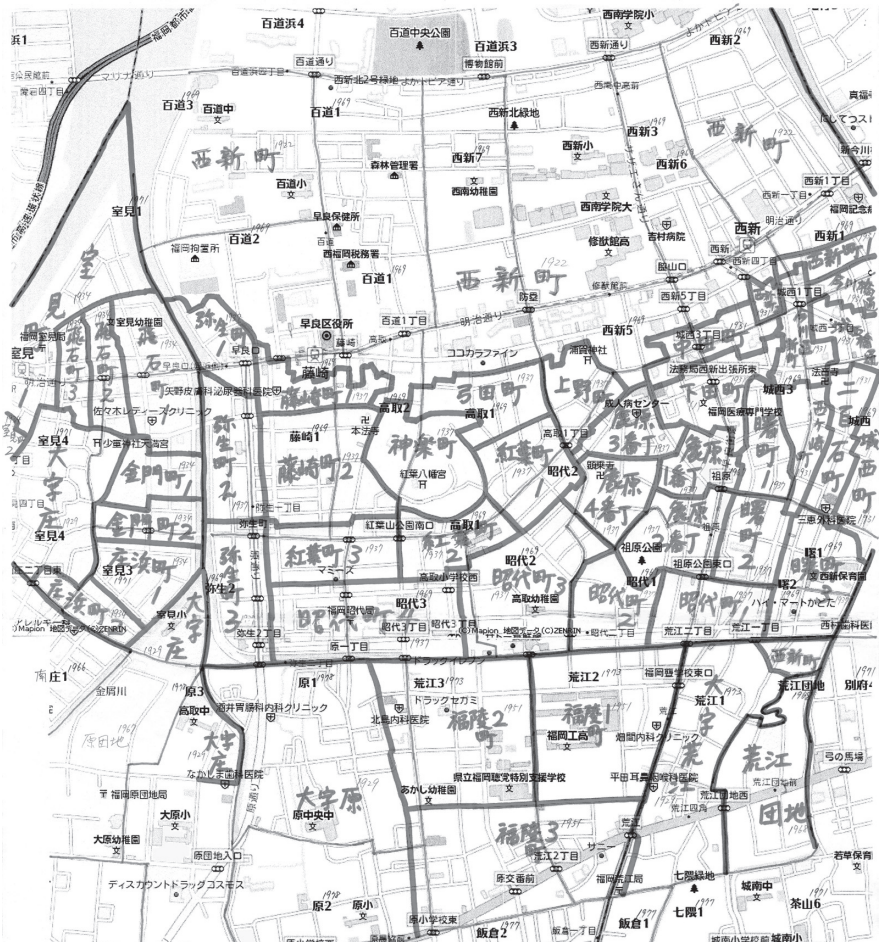
図３は，130年以上前に発足した「早良郡西新町」周辺の地図である。1889年４月１日の町村制施行の際，西新町村と麁原（そはら）村が合併し，早良郡西新町となった。その後，1922年４月１日に福岡市に編入され，福岡市西新町となった。

また，1889年の町村制施行時に西新町の南に，早良郡原村が発足した。原村は1929年４月１日に福岡市に編入され，かつての村単位である大字庄，大字原，大字荒江等に分かれた。1893年に発足した姪浜町は現在の西区に位置し，以下の考察では取り上げない。



出所：歴史的行政区域データセットβ版：コロプレス地図（下地）をもとに，筆者作成

図３　早良郡西新町・原村・姪浜町（1920年１月１日時点）



出所：福岡市市民局市民部区政課（1979）および Mapion 地図データ（下地）をもとに，筆者作成

図４　1970年前後までの町界と町名

筆者が20年以上勤務している西南学院大学は，早良区北部の西新に所在している。図４において本学は，３つの手書きの「西新町」のうち，真ん中の「西新町」の少し上にある[14]。手書きの薄い線は現在の町界であり，基本的に道路で区切られている。一方，手書きの太い線は，1970年前後まで存在した旧町界である。

図５は，西新町周辺の町名の変遷を示したものである[15]。細かくて見づらい部分があるが，角が丸い四角に囲まれた町名は1969年６月までの旧町名，通常の四角で囲まれた町名は同年７月からの現町名である。また，破線の小さい四角内は，隣接する大字名である（大字鳥飼・大字荒江・大字庄・大字原）。イタリック（斜体）で示した町名は，1969年に西新町部分を含めた形で町界町名整理が行われた町である[16]。

図５の町名の発足時期は，以下の４つに分かれる。なお，町名は基本的に，図の右から左の順に示している。

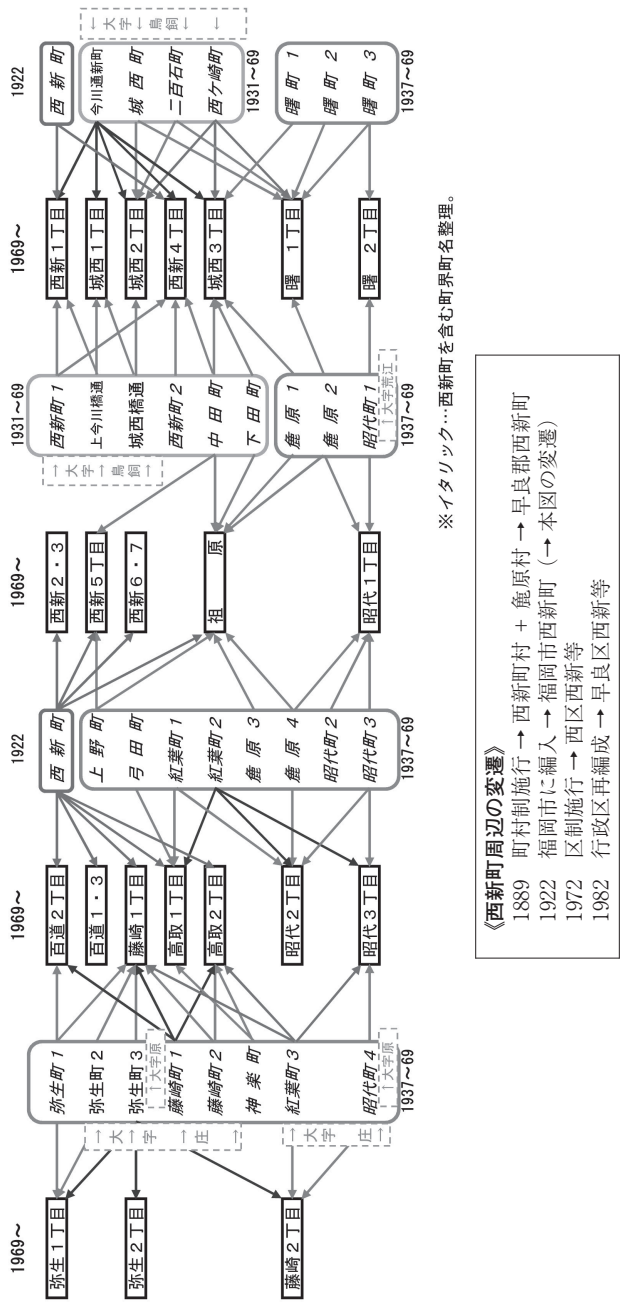
(1) 1922年：（福岡市に編入）西新町
(2) 1931年：今川通新町，城西町，二百石町，西ケ崎町，西新町１丁目，上今川橋通，城西橋通，西新町２丁目，中田町，下田町
(3) 1937年：曙町１～３丁目，麁原１～４番丁，昭代町１～４丁目，上野町，弓田町，紅葉町１～３丁目，弥生町１～３丁目，藤崎町１・２丁目，神楽町
(4) 1969年（住居表示実施）：西新１～７丁目，城西１～３丁目，曙１・２丁目，祖原，昭代１～３丁目，百道１～３丁目，藤崎１・２丁目，高取１・２丁目，弥生１・２丁目

一見して，旧町名の多くには「町」が入っていたのに対して，現町名に「町」は入っていない。福岡市では，豊臣秀吉の「太閤町割り」以来の歴史を誇る旧博多部が「町」のみで構成されているが，それ以外の地域で「町」は少

14　本学の西新校地は西新3丁目（東キャンパス），6丁目（中央キャンパス），7丁目（西キャンパス），百道1丁目（インターナショナルハウス3棟）の4町にまたがる。現在の本部は西新3丁目に位置するが，2014年以前は西新6丁目にあったため，引き続き西新6丁目の住所が使用されている。

15　ここで紹介するのは，「公称町名」である。一方で，「通称町名」が多く存在した。例えば池・日本交通研究会編（1958）によると，西新町界隈には通称町名として，早良口，汐入町，新地，千眼寺前町，中西町，西新町本通1～6丁目，防塁町，百道，百道本町等が存在した（五十音順）。

16　例えば，図5の右下にある曙町3丁目は，西新町の領域とともに，曙1丁目（の一部）と曙2丁目（の一部）になった。



※イタリック…西新町を含む町界町名整理。

《西新町周辺の変遷》
1889　町村制施行 → 西新町村 ＋ 麁原村 → 早良郡西新町
1922　福岡市に編入 → 福岡市西新町（→ 本図の変遷）
1972　区制施行 → 西区西新等
1982　行政区再編成 → 早良区西新等

出所：筆者作成

図５　西新町周辺の町名変遷図

数派である[17]。特に城南区と早良区においては，「町」はゼロである。

西新町は，佐賀銀行・筑邦銀行・西日本シティ銀行・福岡銀行（五十音順）の支店名として現役である[18]。佐賀銀行の西新町支店となったのは1955年であるが，同行が唐津銀行だった1921年の時点で，西新町支店と称している[19]。その前年である1920年に，筑前銀行西新町支店が開業し，1937年博多銀行同支店，1941年十七銀行同支店を経て，1945年に福岡銀行西新町支店となった。他方，1952年に西日本相互銀行西新町支店，1965年に筑邦銀行西新町支店が開業し，前者は1984年に西日本銀行同支店，2004年に西日本シティ銀行同支店となった。

旧町名の「麁」原は難しい漢字であるが，当時の『福岡市政だより』によると，麁原が祖原になったのは簡単化のためである。その一方，「麁原山」や「麁原薬師如来」といった名称に，現在も「麁」の字が遺されている。とはいえ実際の表記は，祖原と麁原のどちらでも構わない。

そのほか，筆者が2017年10月27日に現地で確認した限り，昭代町・弓田（町）・弥生町は駐車場名で，下田（町）・神楽（町）は建物名で，それぞれ遺っている。また，弥生町という名の交差点がある。

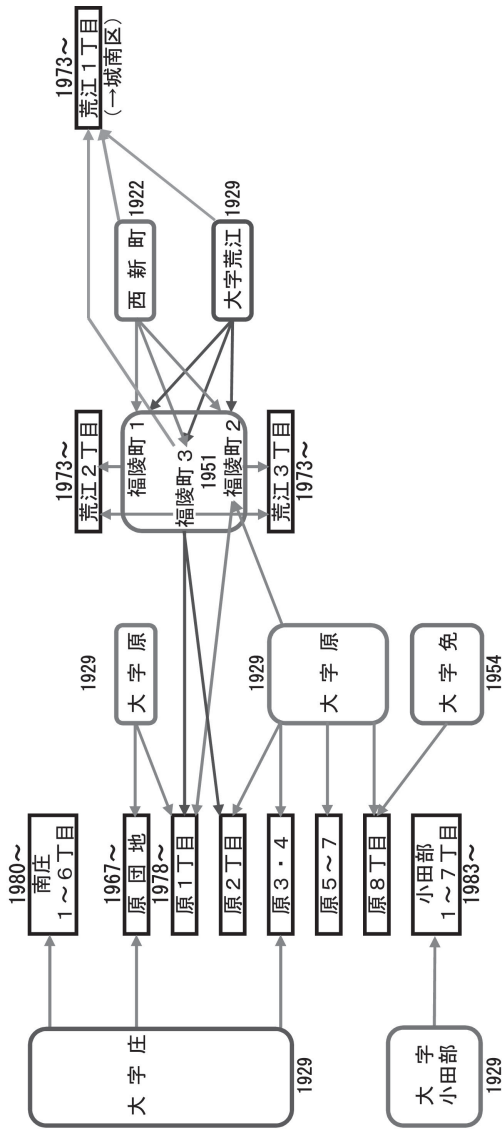
図６は，西新町の西南と接する大字原周辺の町名の変遷である。図５と同様に，角が丸い四角に囲まれた町名は旧町名，通常の四角で囲まれた町名は現町名である。

図６の町名の発足時期は，以下の通りである。町名は，図の右から左の順に示している。1951年に発足し1978年に消滅した福陵町は，西鉄バスの停留所名でそのまま遺っているほか，福陵入りの建物等も何件か存在する。

17　博多区は例外的に，旧博多部以外でも「町」が多い。具体的には，相生町，銀天町，東雲町，昭南町，新和町，竹丘町，東光寺町，中洲中島町，西春町，春町，比恵町，光丘町，南八幡町，南本町，元町，吉塚本町（五十音順）である。そのうちのほとんどは，1981年2月1日に住居表示が実施された南部の町である。

18　以下の記述は，各銀行の社史等（佐賀銀行（1982），筑邦銀行（1973），西日本銀行（1995），福岡銀行（1995））を参考にしている。

19　佐賀銀行西新町支店の原点は1920年の糸島銀行鳥飼支店であるが，大字鳥飼に所在しつつ，1921年に唐津銀行西新町支店，1931年に佐賀中央銀行福岡支店と称した。その後同行は，1936年に西新町1丁目に移転し，1950年に福岡支店から西新町支店に改称した。



《大字原周辺の変遷》
1884　原村 ＋ 荒江村 ＋ 有田村 ＋ 飯倉村 ＋ 小田部村 ＋ 庄村 ＋ 七隈村 → 原村
1889　町村制施行 → 早良郡西新町，同原村
1922　福岡市西新町
1929　福岡市大字庄，大字原，大字荒江等
　　（→ 本図の変遷）
1972　区制施行 → 西区大字原等
1982　行政区再編成 → 早良区原１丁目等
　　荒江１丁目は城南区に所属

出所：筆者作成

図６　大字原周辺の町名変遷図

(1) 1922年：(福岡市に編入) 西新町
(2) 1929年：(福岡市に編入) 大字荒江，大字原，大字庄，大字小田部
(3) 1951年：福陵町１～３丁目
(4) 1954年：大字免
(5) 1967年（住居表示実施，以下同様）：原団地
(6) 1973年：荒江１丁目（→1982年城南区に所属[20]），荒江２・３丁目
(7) 1978年：原１～８丁目，1980年：南庄１～６丁目，1983年：小田部１～７丁目

図７は，西新町の西隣に位置する大字庄周辺の町名の変遷である。西新町に劣らず広大だった大字庄は徐々に縮小し，最終的に西区の室見川沿いにわずかに遺ったが，2002年の愛宕南の発足をもって完全に消滅した。2017年10月27日に現地確認した「庄駐車場」の看板はその後，違う名称のものに差し替えられた[21]。

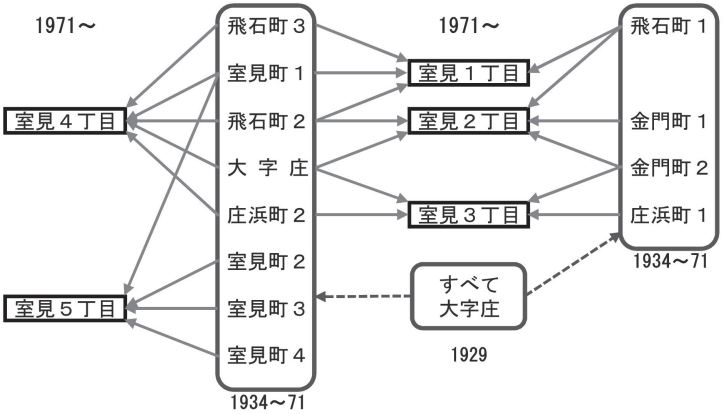
現在の早良区における町名の発足時期は，以下に示す通りである。飛石や金門，庄浜は2017年10月27日の現地確認によると，建物や橋，駐車場，公園等の名称に遺っている[22]。

(1) 1929年：(福岡市に編入) 大字庄
(2) 1934年：飛石町１～３丁目，金門町１・２丁目，庄浜町１・２丁目，室見町１～４丁目
(3) 1971年（住居表示実施）：室見１～５丁目

20　城南区と早良区の境界設定には地域住民の意向等が反映され，複雑に入り組んでいる（福岡市行政区画審議会（1980）参照）。例えば，ほぼ南北を貫く早良街道より東の荒江1丁目と飯倉1丁目は城南区である一方，荒江2・3丁目と飯倉2～7丁目は早良区である。しかも，飯倉5・6丁目（早良区）は早良街道より東にある。

21　庄の名が遺る公共物は，金屑川に架かっている庄橋と西ノ庄橋である。後者については，かつて西ノ庄町，西ノ庄西町，西ノ庄東町という通称町名が存在したことによる（池・日本交通研究会編（1958）より）。

22　飛石名が入った公共物として，福岡市下水道飛石町ポンプ場と飛石橋がある。



《大字庄周辺の変遷》

1884　原村 ＋ 荒江村 ＋ 有田村 ＋ 飯倉村 ＋ 小田部村 ＋ 庄村 ＋ 七隈村 → 原村
1889　町村制施行 → 早良郡原村
1929　福岡市に編入 → 福岡市大字庄，大字原，大字荒江等（→ 本図の変遷）
1972　区制施行 → 西区大字庄
2002　西区姪浜町 ＋ 同大字庄 → 同愛宕南１・２丁目

出所：筆者作成

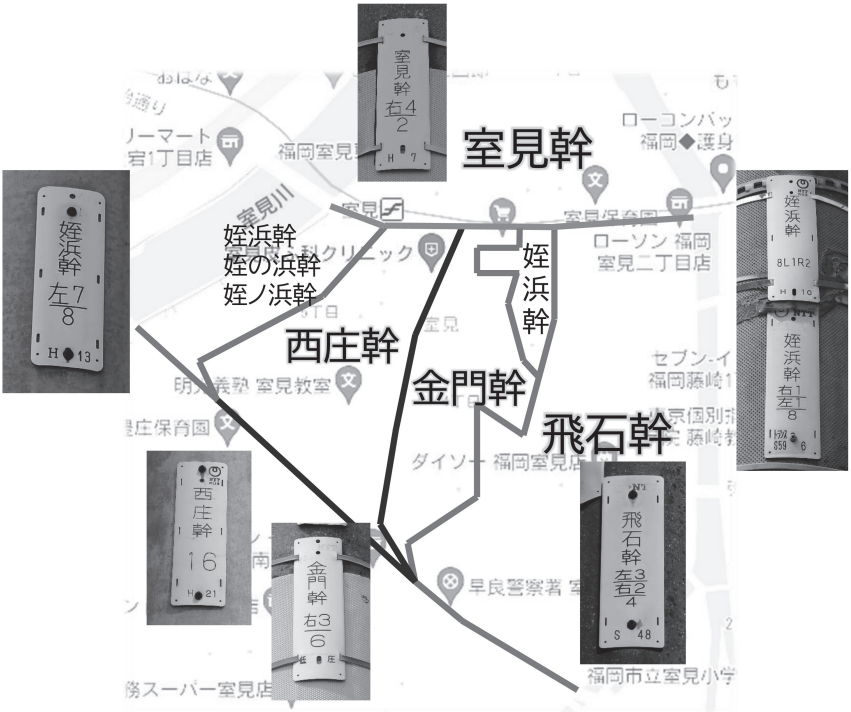
図７　大字庄周辺の町名変遷図

図８は町名研究の一つのトピックとして，早良区室見１～５丁目における「NTT 電柱番号札」[23]の分布状況を示したものである（2021年４月29日に調査）。

小出（2021）の最後でふれたが，電柱に留められている NTT 電柱番号札には，住居表示実施以前の旧町名や，かつて存在した施設名が遺されている場合が多い。そして，その名称はずっと変わらない（送り仮名等が変わることはある）。どのような札があるかは，徹底的に歩いて観察しないとわからない。

地下鉄が通る「明治通り」より北に位置する室見１丁目では，電柱のすべてが「室見幹」である。その一方，明治通りより南では，基本的に縦方向に境界が見て取れる。「飛石幹」はかつての飛石町より広く分布し，「金門幹」はかつての金門町からずれた位置に分布している。「西庄幹」という名は，かつて西ノ庄という通称町名があったことに由来する。

23　NTT の前身である，日本電信電話公社（1952～1985年，略称は電電公社）のマークが入った電柱番号札も，かなり稀少であるが福岡市内に遺っている。



出所：Google マップ（下地）をもとに，筆者作成

図８　室見１～５丁目の NTT 電柱番号札の分布

興味深いのは，「姪浜幹」とその類似名の電柱が，過去に一度も姪浜町ではなかったこのエリアに存在することである。対岸が姪浜町だった室見川沿いはまだしも，飛石幹と金門幹に挟まれた縦方向に姪浜幹が並んでいる理由がわからない。このスポットに（姪浜発着の）市内電車の電停があったわけではなく，また姪浜にゆかりの店舗が並んでいた証拠もない。もしかすると，電柱の設置時期に何らかの関係があるかもしれない。

旧町名の痕跡としての NTT 電柱番号札に引き続き注目し，研究していく価値はある。

５．成果と課題

本稿は，福岡市の住居表示実施状況について，公開資料と実地調査をもとに論述した。

まず第２節で，わが国の住居表示実施第一号である1962年８月の事例から，直近の2022年７月までの事例を概観した。次に第３節で，1972年に５区制，1982年に７区制となった福岡市の住居表示実施状況を，行政区別に記述した。そして第４節で，住居表示実施以前の旧町名から始まる変遷図と，旧町名の実際の遺り方について，早良区北部の旧３町（西新町・大字原・大字庄）を中心に紹介した。

福岡市の住居表示実施に関する情報は，『福岡市史』の昭和編資料集２冊とウェブサイトの「区政概要」に掲載されているものの，市の住居表示施策が（2022年７月19日の実施分以外は）ほぼ落ち着いており，現在進行中の自治体に比べて[24]，このトピックが注目される機会は非常に少ない。

それ以前に，住居表示実施の研究自体がほとんど見当たらない。その意味で，本稿が取り上げたテーマとそれへの試論的な接近は，身近ではあるが未開であるこのトピックが研究されるきっかけとなりうるのではないか，と考えている。

一方で，自治体によっては住居表示に関する資料が十分にあるとはいえないため，研究者はさまざまな資料を探して，同時に現地を綿密に調査して，施策の全体と部分を構成していく必要がある。これはかなり時間を要する工程であり，2017年に西新周辺の旧町名調査を始めた筆者も，依然として満足な考察スタイルを得ることができていない。

これは課題であるとともに，醍醐味でもある。筆者の場合は幸運にも，職場の近くに福岡市総合図書館があり，不明なことがあればすぐに郷土資料コーナーに行って調べることができる。また，自動車を運転しない筆者にとって，福岡市は歩行調査に適した規模と交通網を備えている。再開発が進んで広い道路が増えている一方，地域によっては幅が１m前後の狭い路地も遺り，自動

24　福岡市に隣接する自治体でこれに該当するのは，糸島市と那珂川市である。

車に乗っていては見逃してしまうものをしばしば発見する。

小出（2021）で仮に定義した「創造的なまち歩き」は，体力と感覚をフル活用して，まちの中の面白いところを見つけようとする「探検」である。住居表示実施状況の資料を調べつつも積極的に歩くことによって，生き生きとしたまちの姿を再構築し，地域の歴史に関心がある読者に新たな感覚で紹介することができる，と考えている。

参考文献

[1] 池清一・日本交通研究会編（1958）『福岡市町名事典』日本交通研究会。
[2] 小出秀雄（2021）「福岡市における旧型の街区表示板の分類」『西南学院大学経済学論集』第55巻第1・2・3号，27-55頁。
[3] 小出秀雄（2022）「北九州市に設置されている街区表示板の暫定的分類」『西南学院大学経済学論集』第56巻第3・4号，59-76頁。
[4] 佐賀銀行（1982）『佐賀銀行百年史』佐賀銀行。
[5] 筑邦銀行（1973）『筑邦銀行二十年史』筑邦銀行。
[6] 塔文社（1961）『福岡市街図』。
[7] 中澤美紀（2022）「住居表示実施状況調査について」『住民行政の窓』第509号，40-78頁。
[8] 西日本銀行（1995）『西日本銀行五十年史』西日本銀行。
[9] 福岡銀行（1995）『創立50周年記念福岡銀行年表：1945-1995』福岡銀行。
[10] 福岡市（1984）『福岡市史　昭和編資料集・後編』福岡印刷。
[11] 福岡市（1997）『福岡市史　昭和編資料集・続編（一）』秀巧社印刷。
[12] 福岡市『福岡市議会議案』『福岡市政だより』各号（福岡市総合図書館所蔵）。
[13] 福岡市行政区画審議会（1980）『福岡市行政区再編成に関する答申』（福岡市総合図書館所蔵）。
[14] 福岡市市民局市民部区政課（1979）『福岡市の行政区画－町・大字の現状－』（福岡市総合図書館所蔵）。

参考ウェブサイト

[1] 千代田区：行政基礎資料集
〈https://www.city.chiyoda.lg.jp/koho/kuse/toke/kisotoke/index.html〉
[2] 千代田区：住居表示実施地区と未実施地区一覧
〈https://www.city.chiyoda.lg.jp/koho/machizukuri/tochi/jukyohyoji/jisshi.html〉
[3] 福岡空港：福岡空港について
〈https://www.fukuoka-airport.jp/about/〉
[4] 福岡市：区政概要
〈https://www.city.fukuoka.lg.jp/shimin/kusei-suishin/shisei/kako_kuseigaiyou.html〉
[5] 福岡市：福岡市統計書（年報）
〈https://www.city.fukuoka.lg.jp/soki/tokeichosa/shisei/toukei/toukeisyo/index.html〉

[6] 福岡市：令和4年7月19日から，西区徳永・田尻地区で住所の表し方が変わります
〈https://www.city.fukuoka.lg.jp/shimin/kusei-suishin/life/tokunagatajiri_zyuusyo.html〉
[7] 福岡市教育委員会：西都北小学校開校準備委員会
〈https://www.city.fukuoka.lg.jp/kyoiku-iinkai/tsuugaku/ed/shinsaito-kaikou_2.html〉
[8] Mapion 地図データ（図4の下地）
〈https://help.mapion.co.jp/search/map.html〉
[9] 歴史的行政区域データセットβ版：コロプレス地図（図3の下地）
〈https://geoshape.ex.nii.ac.jp/city/choropleth/〉